

医師の負担軽減にかかわる計画（2025年度）

項目	具体策・方法	2025年度目標
初診時予診の実施	<p>外来看護師あるいは事務職員に予診業務を行う。</p> <p>これらの職種が予診を行い、問診票を分かりやすく正確にカルテに反映させる。</p>	<p>患者の主訴・経過・既往歴・服薬情報等を予診票に正確に記載する。</p> <p>予診票は医師がスムーズに診療を開始できるよう、診察前に必要な情報を要約・整理して記載する。記載のサポート体制を整え、患者との対話が苦手なスタッフにも対応可能なフォーマットやマニュアルを整備する。</p>
入院の説明の実施	<p>医師が患者に治療方針や症状の説明を行う場合は、患者やその家族に補足的な説明を行い、医師と患者とのコミュニケーションが円滑に図れるよう協力する。入院の説明は、事務および看護師等が実施する医師と患者とのコミュニケーションが円滑に図れるよう協力する。</p>	<p>入院時に必要な各種説明を「治療に係る説明」と「その他の説明」に整理・分類し、それぞれの役割分担を明確化する。</p> <p>治療内容や医学的判断に関する説明は引き続き医師が行うが、入院生活の流れ・面会ルール・持ち物・書類手続き等の説明については、相談室職員または事務職員が対応する。</p>
服薬指導	<p>薬剤師が行い、医師の負担軽減を行う。薬剤の効能効果、用法用量など最新情報が、迅速に閲覧できるようデータを適切に管理する。</p>	<p>院内採用薬に関する情報の定期的な更新と整理を継続的に実施し、最新の薬効・副作用・使用上の注意事項等を常に確認できる体制を整える。</p> <p>医師が必要とする薬剤情報を迅速かつ簡潔に提供できるよう、薬剤科内での情報収集・共有体制を強化する。</p>
静脈採血等の実施	<p>医師の指示に基づき、看護師が、採血等を実施する。また臨床検査技師の検体採取も並行して実施する。</p>	<p>診察前や診療中の静脈採血・検体採取・ルート確保などについて、看護師が基本的に対応する体制を維持する。検査項目や技術的に専門性が求められるケースについては、臨床検査技師との連携を図り、安全かつ効率的に実施する。</p>
検査手順の説明の実施	<p>看護師の検査予約時の説明に加え、他職種による機器の操作方法等の説明を行い、医師の診療をサポートする。</p> <p>各検査に関する問い合わせや、患者への検査説明を行う。</p>	<p>検査に関する事前説明（内容・準備・注意事項など）を、検査を担当する職種が実施できるようにする。</p> <p>医師は診療上の必要性・判断に関する説明に注力し、それ以外の手技的・実務的説明については他職種が担う体制とする。</p>
管理栄養士	<p>栄養状態が不良な患者に対し、安全な栄養管理を行ない、医師の診療をサポートする。栄養指導を評価改善まで継続的に行ない、治療の効果を的確に示すことで、医師の診療をサポートする。</p>	<p>入院・外来患者に対する栄養管理指導や食事説明を、医師の診療方針に基づき、管理栄養士が継続的に実施・補足する体制を整備する。</p> <p>糖尿病、腎疾患、嚥下困難、低栄養など特別な栄養管理が必要なケースにおいて、栄養評価・計画作成・モニタリングなどを管理栄養士が主体的に対応する。</p>
医師事務作業補助体制	<p>医療事務作業補助者を有効に配置し、医師の負担の軽減を図る。各種申請において、代行が可能な医師業務を積極的に行う。</p>	<p>診断書・意見書・紹介状・報告書等の文書作成支援を行い、医師の確認・署名作業のみとすることで負担を軽減。公費申請や医療保険関連の書類準備・情報整理を補助者が担当し、医師は最終確認・判断のみ対応。適宜、適正人員を配置する。</p>
勤務体制に係る取組み	<p>医師の勤務体制の管理において、連続当直を行わない体制を確保する。また前日の就業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時間休息時間の確保する</p>	<p>・引き続き医師の派遣協力いただき、当院医師の当直体制は取らないように体制づくりを行う。</p> <p>・勤務間インターバルについては、11時間確保する。</p>